

日時 6月15日（火）特設5校時（13:15～14:15）

活動場所 6年教室、体育館、畑、アッセンブリ、チャレンジロード、低学年屋上

1 活動名 ともすの活動

2 活動について

始業式の翌日、学年で集まり、小学校生活最後の1年間、学年活動としてどのような活動を創りたいかということ話し合った。様々なアイデアが挙がるなか、「それをして、どのような学びが生まれるのか」「みんなが楽しめるものにはならないのではないか」「去年の反省はどのように生かされるのか」といった意見が多く投げかけられた。翌週、学級での話し合いを経て学年で活動の目的を共有すると、子どもたちがこだわっていたのは主に、「全員が楽しめるもの」「意味のある活動」の2つであった。そこで、昨年度までの子どもたちの活動を例に挙げながら、「楽しめる」ために必要なことを話し合った。また、「意味がある」とはどのようなことなのか、互いの考えを擦り合わせていった。

このような子どもたちの姿から、子ども自身が本当に実現させたいと考えることに取り組む活動をしていくことにした。活動目的の近い子どもたちが集まって、互いの思いを聴き合いながらプロジェクトをつくる。そして、目的達成のための手立てや計画を共に考え、創っていく。また、活動を進めていく中で、計画通りにいかないような事態も起こり得よう。そうした状況の中で教師は、子どもたちが「実現させたい」ということに向かってどのように自身の学びを構想し、他者との相互作用によって学びをあとでいくのかを見取っていく。また、学びを構想する過程において、子どもたちが立ち止まり、自身やプロジェクトの活動を見つめ、振り返りながら次の活動に向かっていく姿を期待したい。

現在、活動が本格始動し、多くの子どもたちは毎時間活動に熱中している。既に、数々のプロジェクト内でメンバー間に不和が生じ、そのための話し合いによって計画を変更することになったり、プロジェクト間で活動のコラボレーションが起きたりと、毎回ドラマティックに活動が進んでいる。そうしたなかで、自身のプロジェクトにのめり込みすぎるのではなく、他のプロジェクトでの取り組み方から学んだり、他を見ることで自身の取り組み方を見つめ直したりする場や時間の必要性を感じている。そこで、目指すところの価値に近いプロジェクトを集めた活動教室（場）を設け、毎時間の初めにその日の予定を共有し、その時間の終わりにはグループでその日の活動について振り返る時間を確保した。また、2時間活動できる金曜日の後半には、その目標・価値に関わる1週間の振り返りを話し合うことができるようにした。こちらについてはまだ始めたばかりなので、今後、その効果については慎重に検証していく必要がある。また、計画表の扱いについても至急検討したい。

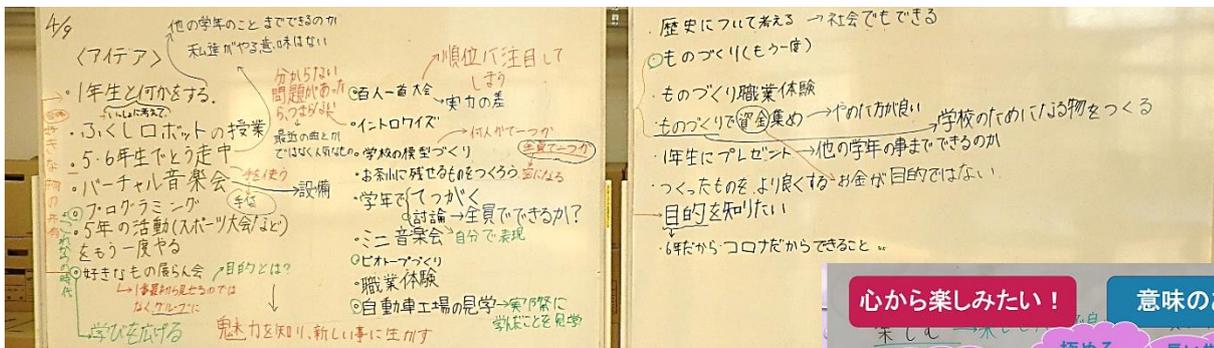
3 学習活動計画

- 第1次 追究したいことをイメージする……………（3時間）
 - ・自己の興味を見つめる ・「やりたいこと」と「相応しい活動」、自分にとっての価値を考える
- 第2次 プロジェクトを構想する……………（15時間）
 - ・友達と思いを聴き合う
- 第3次 プロジェクトを立ち上げる・実行する……………（本時7／約100時間）
 - ・計画通りにいかないもどかしさ ・葛藤 ・計画の見直し
- 第4次 成果発表をし、活動を振り返る……………（9時間）

4 学びの履歴とこれからの展望

第1次 追究したいことをイメージする

○4月9日 最後の「ともすの活動」として何をしたいかを学年で話し合った。



○4月14日、16日 「ともすの時間」は何のため?

学級での話し合いを経て、学年で目的を共有。そこで挙がったキーワードは、右図のようなものであった。

第2次 プロジェクトを構想する

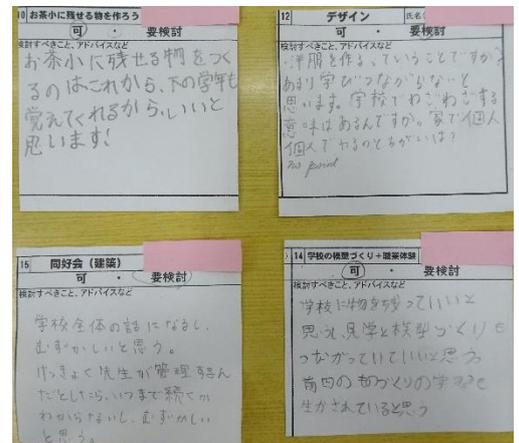
○4月3週目 活動を構想する

自分が取り組みたいことは何なのか、どのような活動をつくってみたいのか、個々で考えた(企画書)。その企画書を見合い、自分の企画と近い仲間を見つけた。ある程度のメンバーが集まったところで、それぞれの思い描いていることを聴き合い、プロジェクトをつくっていった。



○5月7日 第1回 企画プレゼン

23のプロジェクトがエントリーし、各プロジェクト3分間で目的、内容、活動の見通しについて発表した。その後、4つのプロジェクトについて5分間の質疑応答を行った。全員がそれぞれのプロジェクトについて、「可(このまま進めていっても良い)」または「要検討」、質問や助言を記入し、各プロジェクトへ返した。



○5月19日 第2回 企画プレゼン

第1回の後に受け取ったコメントを受け、再発表を希望した13プロジェクトがエントリーした。各プロジェクト2分半で発表、4つのプロジェクトについて10分間の質疑応答を行った。第1回と同様、コメントシートに記入、各プロジェクトへ返却。

○5月最終週 プロジェクト、メンバーの確定。(22のプロジェクトが誕生)

第3次 プロジェクトを立ち上げる・実行する

○6月第1週 本企画書の作成。活動教室の決定。各教室に集まったプロジェクトの共通する価値の確認。

〈各プロジェクトの活動の履歴、今後の展望については、裏面参照〉

5 部会の課題

○てつがく創造活動における、てつがくの面について改めて考える。

- ・どのように「そもそも」の本質的な部分を考えられるようにするのか、出たところを評価するのか。対話、主体性をどうとらえ、どう伸ばすか。
- ・立ち止まって考えさせたらよいのか、子どもから自然発生的に出た方が深まっていくのか。

○教科横断的な学びとの関連を図る。教科における主体的な学びを進めるにあたり、対話、ふり返り、計画表、個別の学習を低学年からのボトムアップで、高学年として発展させていく。

○教師の関わりについて、教師の見取りとそれを可能にする仕組みの検討。活動規模、子どもによるドキュメンテーションなど。

○元々の個人・集団のメタ認知スキル・社会情意的スキルがてつがく創造活動のプロセスにどのような影響を与えるか、子どもの姿を見取っていく。

【参観・協議の視点】

- ・教師の関わりについて。教師はどう関わっていくことができるか。
- ・個人や集団がもつメタ認知スキル・社会情意的スキルがプロジェクトの活動に影響を与えていると思われる姿。